

TOKYO iCDC

Tokyo Center for Infectious Diseases Prevention and Control
~Intelligence Network~

Review of Tokyo iCDC Activities from October 1, 2020

東京iCDC所長ご挨拶



賀来 満夫
東京 i C D C 所長

都の感染症対策を担う新たな組織

東京iCDCは、令和2年（2020年）10月1日に創設されました。感染症に関する調査・分析、情報収集・発信など、効果的な感染症対策を一体的に担う新たな組織として、都の感染状況とそれぞれのステージに応じて助言等を行っています。また、都民向けの感染対策ハンドブック作成や、高齢者施設等のクラスター対策支援など取組は多岐に渡ります。

様々な領域の専門家のネットワーク

東京iCDCは、東京都の感染症対策に、様々な領域の専門家が支援協力するという、これまでの地方自治体にはない新たな取組であるといえます。

積極的な情報発信（リスクコミュニケーション）

有効な感染対策を、より実効性のある取組とするため、都民・事業者の皆様への呼び掛けなど、様々なチャンネルを通じて、積極的な情報発信を行っています。

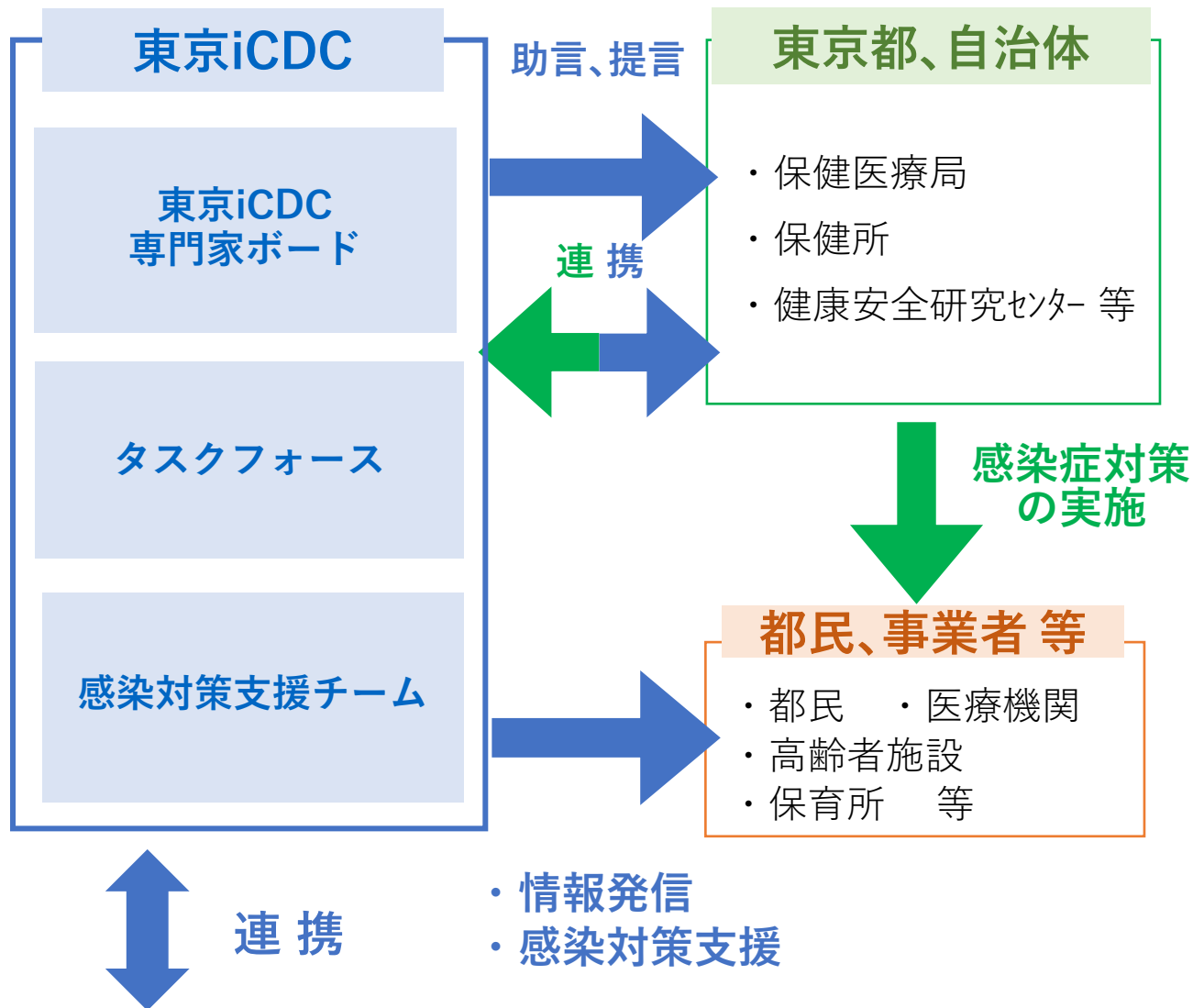
感染症は、社会全体の危機となる疾患です。社会全体でネットワークを構築し、対応することが、“最強のワクチン（「ヒューマンワクチン」）”と言えます。

東京iCDCは、専門家の観点から、東京都そして都民の皆様を支えてまいります。

東京iCDCについて

東京iCDCは、東京都に対する助言・提言のほか、感染対策の支援や情報発信等を行います。

平時から、国内外の研究機関・行政機関等とのネットワーク構築によりインテリジェンス機能を強化し、危機発生時には、迅速かつ効果的に対応を図ります。



- 大学・研究機関
- 日本感染症学会、日本環境感染学会
- 国立健康危機管理研究機構 (JIHS)
- 都医学総合研究所
- WHO
- 米CDC
- 欧州CDC
- 台湾CDC
- 香港CHP
- シンガポールNCID
- 各国CDC
- 民間企業 等

東京iCDC専門家ボードについて

効果的な感染症対策を支援する専門家のネットワーク

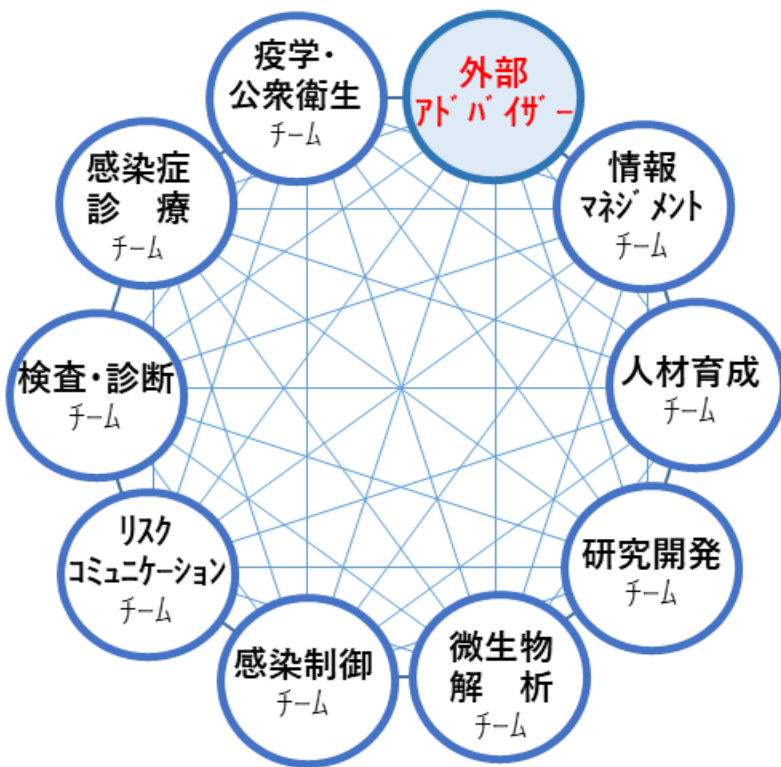
効果的な感染症対策を実践するためには、最新情報や科学的な知見、エキスパート・オピニオンに基づく助言や支援が必要となり、専門家の存在は欠かせません。

そのため、東京iCDCは、感染症に関わる様々な領域の専門家で構成する「専門家ボード」を設置しています。この専門家ボードは、相互に連携した**9つのチーム**と外部アドバイザーで構成されています。

これまでの地方自治体になかった感染症対策を支援する専門家のネットワークです。

東京iCDC専門家ボード

※ 外部アドバイザーは客観的な立場から助言を行う



全国各地の医療機関、大学、研究所等の日本を代表する専門家が東京iCDCに参画

タスクフォースについて

特定の課題に対応するために設置

東京iCDCには、感染症に関する特定の事項を検討する「タスクフォース」を設置しています。

令和2年（2020年）10月の立ち上げ以降、新型コロナの5類移行までに、12のタスクフォース※を設置してきました。

新型コロナ5類移行を契機に、タスクフォースを再編するとともに、新たなタスクフォースを設置し、現在は**7つのタスクフォース**が活動しており、専門家ボードのメンバーや関係機関の専門家と検討を行っています。

※令和5年5月までは、主に新型コロナに関連したタスクフォースを設置。

タスクフォース



喫緊の課題には
タスクフォース
を立ち上げて機
動的に対応

～主なタスクフォース～

ゲノム解析

- ・ コロナ変異株の発生動向の監視

後遺症

- ・ コロナ後遺症の実態調査、理解促進等

梅毒

- ・ 都の梅毒対策への助言等

AMR

- ・ 薬剤耐性菌に関する現状把握、理解促進等

感染対策支援チームについて

施設内の感染拡大防止を支援

新型コロナの第1波では、多くの病院でクラスターが発生しました。そのため、令和2年（2020年）10月に医師及び看護師などの専門家で構成する「感染対策支援チーム」を設置しました。保健所からの派遣要請等に応じて、病院や高齢者施設等へチームを派遣※し、ゾーニングや個人防護具(PPE)の着脱など、感染拡大防止に関する指導を行っています。

加えて、令和6年度からは、平時における保健所連携の取組として、保健所の事例検討会等にも参加しています。

※東京都健康安全研究センターの東京都実地疫学調査チーム（TEIT）と連携

感染対策支援チーム



- 初期評価
- 疫学調査
- 感染管理・拡大防止
- 施設の機能維持 等

クラスターが発生した
病院・高齢者施設等

～東京 i C D C の取組の柱～

「感染症に強い都市・東京」の実現に向けて
以下の3つを柱として取組を推進

インテリジェンス 機能の強化



調査・分析
情報管理

都市、機関
へ訪問

国内外のネットワークや調査・分析機能の充実を図り、東京 i C D C のインテリジェンス機能を強化

- 海外の都市や研究機関等への訪問や、JIHSなど国内関係機関及びアカデミアとの連携等を通じ、国内外の人的・組織的ネットワークを拡充
- 新型コロナのゲノム解析や下水サーベイランスのほか、先端技術を活用した実証実験を実施するなど、調査・分析機能を充実

都の効果的な 感染症対策 の実施を支援



未知の
感染症
への備え

人材育成
の推進

あらゆる感染症を対象に、東京 i C D C の専門的知見を提供し、都の効果的な感染症対策の実施を支援

- 東京 i C D C 等の専門家が、都の様々な部署が行う感染症関係施策に対する助言を実施
- タスクフォースの機動的な活動により、薬剤耐性（AMR）など、次の脅威に向けた課題に対応
- 保健所等の現場と連携し、感染症の専門人材の確保・育成を推進

社会全体の感染症 対応力を向上



行動計画
予防計画

地域社会

社会全体の感染症対応力の向上を図り、サステナブルな都市の形成に寄与

- 家庭や高齢者施設、保育所等で役立つ感染対策ツールの作成や東京 i C D C フォーラムの開催など、感染症に係る様々な普及啓発活動を通じ、地域社会の感染症対応力を向上
- 新型コロナの罹患後症状（後遺症）について、ポータルサイト等を活用し、理解促進等の普及啓発や医療従事者等向けのオンライン研修会等を実施

海外の感染症関係機関とのネットワーク構築

海外の都市や研究機関等への訪問を通じて感染症対策におけるネットワークを拡充

感染症に国境はありません。パンデミックへの備えを強固にするためには、平時から海外の都市や感染対策関係の専門家、研究機関等との密なネットワークを構築し、世界の感染症の発生状況や対応状況を共有することが重要です。

東京iCDCは、海外の感染症対策の中心的な役割を担う機関等への訪問を行い、感染症対応に係る海外の先進事例や課題の解決に向けた取組をヒアリングするとともに、都の取組をPRすることで、顔の見える関係を構築しています。

東京iCDCの海外ネットワーク



国内のアカデミアとの連携

国内開催の学術集会等におけるシンポジウムの開催により、アカデミアとの連携を推進

アカデミアとの連携体制を構築し、平時における最新の学術知見の収集や有事の際の迅速な協力体制の確保につながるため、感染症関係の学会が主催する学術集会等の機会を活用し、東京iCDCの取組をPRするなど、学会に所属する専門家及び学術集会等の参加者に対する東京iCDCのプレゼンスの向上に取り組んでいます。

東京感染症対策センター

TOKYO iCDC

Tokyo Center for Infectious Diseases Prevention and Control

都の感染症対策を支える専門家の力

東京iCDC（東京感染症対策センター、Tokyo Center for Infectious Diseases Prevention and Control）は、感染症に関わる様々な領域において、調査・分析、情報収集・発信などを行う専門家のネットワークです。
医師や研究者、行政職員など感染症対策の専門家から成り、科学的根拠や最新の知見に基づき都への助言や、都民に対する分かりやすい情報発信を行っています。

東京iCDCの取組の3つの柱

<div style="text-align: center; background-color: #E0F0E0; padding: 5px;"> <h4 style="margin: 0;">インテリジェンス機能の強化</h4> <p style="font-size: 8px; margin: 0;">調査・分析 都市、機関 情報管理 へ訪問</p> </div> <p style="font-size: 8px; margin-top: 5px;">調査・分析機能やネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 海外のCDCや政府関係機関等への訪問を通じたネットワークの構築 ▶ 学術集会等の機会を活用したアカデミアとの連携強化 ▶ 先端技術を活用した感染対策に関する実証実験の実施 	<div style="text-align: center; background-color: #E0F0E0; padding: 5px;"> <h4 style="margin: 0;">都の効果的な感染症対策の実施を支援</h4> <p style="font-size: 8px; margin: 0;">未知の感染症 人材育成の への備え 推進</p> </div> <p style="font-size: 8px; margin-top: 5px;">都における感染症対策全般の実施を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ タスクフォースの機動的な活動などにより、次の脅威に向けた課題に対応 ▶ 現場と連携し、感染症医療人材の確保・育成を推進 	<div style="text-align: center; background-color: #E0F0E0; padding: 5px;"> <h4 style="margin: 0;">社会全体の感染症対応力を向上</h4> <p style="font-size: 8px; margin: 0;">東京都新型コロナウイルス インフルエンザ等対策行動計画 地域社会</p> </div> <p style="font-size: 8px; margin-top: 5px;">社会全体の感染症対応力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 家庭や高齢者施設等で役立つ感染対策ツールの作成 ▶ 新型コロナウイルスの後遺症対策 ▶ 東京iCDCフォーラムの開催等を通じた都民への普及啓発活動
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

都民の健康と生命を守る
東京都保健医療局

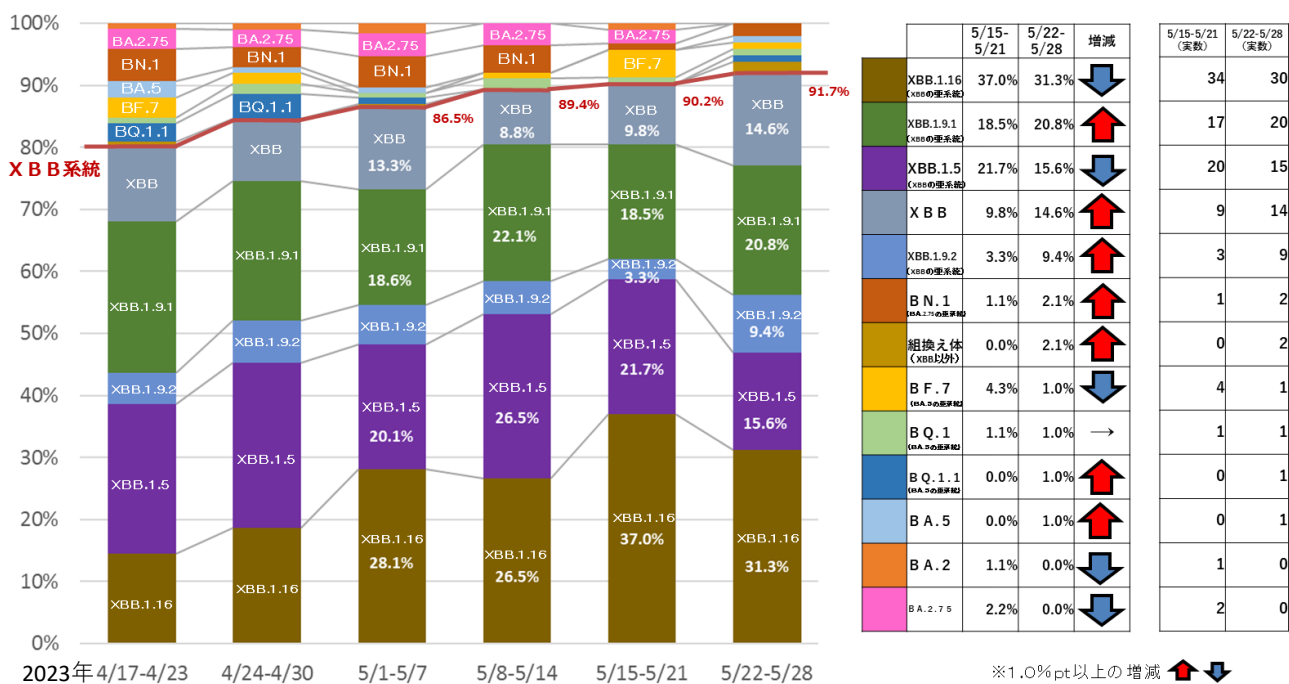
[日本語HP] [English Website]

新型コロナウイルスの変異株の監視 (ゲノム解析)

免疫逃避や重症度、感染性への影響が指摘される変異株を監視

新型コロナウイルスは、増殖や感染を繰り返す中で、少しずつ変異しています。変異は、免疫逃避や重症度、感染性などに影響する可能性があり、新たな変異株の発生は、感染拡大に繋がる恐れがあります。

そこで、変異株の発生動向を監視するため、ゲノム解析を継続的に実施し、都内の変異株の状況を把握・分析するとともに、海外の状況についても確認しています。



※1.0%pt以上の増減 ↑ ↓
0.5%pt以上の増減 ↗ ↘

※ 都内検体の、過去6週に報告を受けた、ゲノム解析の実績(速報)
 ※ 追加の報告により、更新する可能性あり
 ※ BA.2とBA.2.12.1とBA.2.75とBN.1は別々に計上。BA.4とBA.4.6は別々に計上。BA.5とBF.7とBQ.1とBQ.1.1は別々に計上。XBB.1.5とXBB.1.9.1とXBB.1.9.2とXBB.1.16は別々に計上(XBBは左記以外のXBB系統)。(報告時点でのPango系統による)

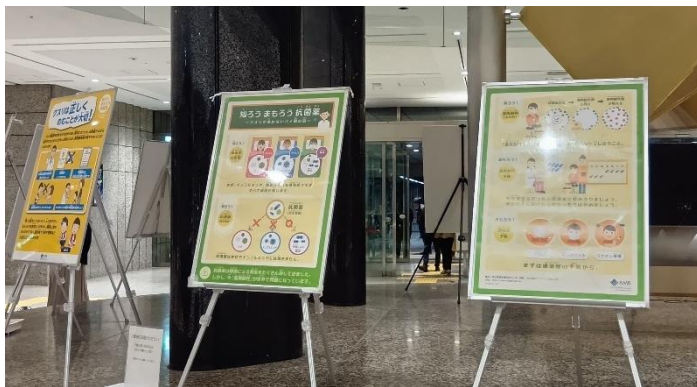
ゲノム解析結果の推移(週別)

薬剤耐性（AMR）の普及啓発

薬剤耐性の認知度向上及び抗菌薬の適正な使用の推進に向け、都民等への普及啓発を実施

「薬剤耐性」（AMR）とは、細菌に特定の種類の抗菌薬が効きにくくなる、又は効かなくなることをいい、薬剤耐性を得た細菌を「薬剤耐性菌」といいます。薬剤耐性菌が増えると、抗菌薬が効かなくなることから、感染症の治療が難しくなります。

こうした薬剤耐性の問題を広く知っていただくため、東京iCDCにAMRタスクフォースを設置し、検討を進めています。また、ホームページでの情報提供に加え、11月の「世界薬剤耐性（AMR）啓発週間」には、都庁舎内での啓発ポスターの展示やグッズの配布、隅田川橋梁群のグローバルカラーでのライトアップなどを実施しています。



「世界薬剤耐性（AMR）啓発週間」における普及啓発の取組
 （左：都庁舎内での啓発ポスターの展示、右：隅田川橋梁群のライトアップ）

ワンストップ相談窓口の設置 ～専門的知見を都の感染症施策に活用～

都の各部署が東京iCDCや公衆衛生医師・保健師等のサポートを受けられるワンストップ相談窓口の運営

都庁内各部署の感染症対策に関する施策を効果的に実施するため、各部署の職員が専門家の知見を積極的に活用できるように、東京iCDCや公衆衛生医師等のサポートを受けられるワンストップ相談窓口を設置し、様々な施策に対し助言等を行っています。

ワンストップ相談窓口の庁内案内

専門家への相談等事例



東京iCDC所長 賀来 満夫先生

**感染症対策に関するワンストップ相談
窓口を開設しました**

**感染症対策について
相談してみませんか？**

担当だけで
悩まない！

感染症対策にお悩みのございましたら、感染症対策部や東京iCDCの専門家等がご相談を承ります。

- ✓ 研修や講演会等における講師依頼
- ✓ Webサイトやリーフレット等へ掲載する内容への意見照会
- ✓ 会議への専門家の参加依頼

等々、ご興味ありましたら、担当までご連絡お願いいたします。
次のページから相談等事例をご紹介します。

専門的知見の活用事例

東京都感染症マニュアルの改訂を支援

都（保健医療局感染症対策部防疫課）では、医療従事者や保健衛生行政職員等が感染症に適切に対応できるよう、感染症の診断、治療、対策などをまとめた「東京都感染症マニュアル」を策定しています。

近年の感染症リスク等を踏まえ、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）や百日咳について、東京iCDCの専門家等から意見を聴取し、改訂に繋がりました。

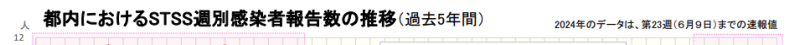
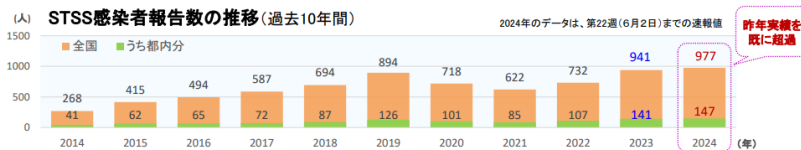
劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）への対応

資料④

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは

参照：国立感染症研究所ホームページ、東京都感染症情報センターホームページ

- 病原菌は、A群溶血性レンサ球菌の他、B群、C群、G群の溶血性レンサ球菌等
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）は突発的に発症し、急速に多臓器不全に進行するβ溶血を示すレンサ球菌による敗血症性ショック病態
- 報告された感染者のうち約30%が死亡しており、極めて致死率の高い感染症
- 2024年の患者報告数は、過去最高だった2023年を第22週時点で超過



劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）への対応

都の対応

- 東京iCDCの専門家から意見を聴取し各委員の知見を集積して感染の傾向等を分析

【主な意見】

- ・ 基礎疾患などの重症化因子を究明していくことが重要
- ・ 迅速適切な診断が行えるよう医療従事者向けの情報提供がまずは重要
- ・ 飛沫感染、接触感染の予防をしっかりとすることが重要
- ・ いたずらに恐れず、正しく恐れ、正しい情報に基づく感染症対策、早期治療を

- ◆ 東京iCDCの分析結果を基に「東京都感染症マニュアル2018」のSTSSに関するページを更新 ⇒ 医療機関向けに提供及びホームページに掲載（4/25）

主な修正項目	修正内容
感染経路	・「飛沫感染」及び「接触（創傷）感染」を追加
臨床的特徴	・初発症状に「咽頭痛」、後発症状に「軟部組織病変」を追加
病原体	・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告数増加との関連が指摘されている「M1uk」に関する記載を追加
行政対応	・保健所で菌株を回収し、健康安全研究センターで菌株分析を行う
治療方針	「ガンマグロブリン投与が推奨されている」を追加

- ◆ 都民向けに飛沫感染・接触感染などの予防策をホームページに掲載（4/25）

- ・ 原因となる溶連菌に感染しない ▶ 手洗いや咳エチケット等の日常の標準予防策を！
- ・ 手足等の傷口から感染することがある ▶ 傷口を清潔に保つ（汚れた手で触らない！）



東京都感染症対策連絡会議にて公表

感染防止対策の普及啓発 – 都民や事業者等への情報提供 –

実践的なハンドブック・リーフレット等の作成・配布

新型コロナ対応においては、広く都民に向けた感染予防ハンドブックを作成したほか、自宅療養期間中の方及びその同居者や、学生やその管理監督者、若者世代などを対象に、感染予防に関するリーフレットやチェックリストを作成・配布するなど、感染状況等に応じ、対象を絞った効果的な対策を展開してきました。

5類移行後の平時においては、日常生活の中で感染症に適切に対応するために役立つハンドブックや動画、高齢者・障害者施設における平時の実践的な感染対策として施設の自主点検の参考となる動画、保育所等の職員の方々が日頃から感染対策に手軽に活用できるハンドブックを作成し、都のホームページやLINE、X、YouTube等を活用して広く周知するなど、感染症全般に対して支援を行っています。



新型コロナの後遺症対策

都民の理解促進や医療従事者等への最新知見の提供、受診のサポートなど、総合的な取組を実施

新型コロナから回復した後にも、罹患後症状（いわゆる「後遺症」）として様々な症状が見られる場合があります。一方で、後遺症は、社会的に十分認知されていない状況にあります。

東京iCDCでは、後遺症タスクフォースを設置し、新型コロナ後遺症の理解促進に向けたリーフレット等に加え、後遺症の症状や治療、家族・職場・学校における支援・配慮の方法等を具体的に紹介する動画を作成するなど、普及啓発を強化しています。

また、医療従事者等を対象に、後遺症の実態や治療方法等の最新の知見や情報を提供するオンラインセミナー(東京iCDC専門家や後遺症治療に当たっている医師等が講師)を開催しています。

さらに、後遺症に対応している医療機関をインターネット上で公表、「後遺症対応医療機関マップ」を作成するほか、所在地や症状からも検索できる機能も設けています。

令和6年8月には、「新型コロナ後遺症ポータル」を開設し、これらの取組や後遺症に関する情報を一元化し、効果的に発信しています。



保護者向け
後遺症リーフレット



新型コロナ後遺症ポータル トップページ →



東京iCDCフォーラムの開催

感染症の専門家が一堂に会する総会（フォーラム）を開催

都民への感染症に係る普及啓発活動等による社会全体の感染症対応力の向上、そして国内外ネットワークのさらなる拡充によるインテリジェンス機能の強化を図るため、令和5年度から、東京iCDCの専門家が集う「東京iCDCフォーラム」を開催しています。フォーラムでは、都民・感染症対策関係者それぞれに向けた国内外の専門家等による講演や座談会を開催するほか、テーマに関連したブース展示なども行っています。令和7年度は、都内の小学生を対象に募集した感染症予防ポスターコンクールの表彰式を実施しています。

都民を感染症から守る

東京iCDCフォーラム

会場 東京都庁第一本庁舎5階大会議場
オンライン参加も可

参加費無料
事前申込制

令和7年(2025年)

2.1[±] 1日目

対象者 都内在住 / 在勤 / 在学の方など

開催時間 13:30～16:00(開場13:00)

定員 会場300名(応募者多数の場合は抽選)

プログラム

1 講演 専門家にお話をいただきます。
①災害と感染症
②災害時における対応
③被災地支援の実例

2 武田 真一氏による講演

被災地の感染症対策支援物資を体験できる展示コーナーがあります。

テーマ 感染症 × 災害
～災害時に健康と生命を守るための感染症対策～

講師 ① 夏島 満夫氏 東京iCDC所長
② 武田 真一氏 プラザチアラー

令和7年(2025年)

2.2^日 2日目

対象者 保健医療関係者、高齢者施設等関係者、研究者、公衆衛生関係者、感染症対策に関心のある方

開催時間 13:30～17:30(開場13:00)

プログラム

1 座談会
①ネクストパンデミック ②ワンヘルス

2 討論会
感染症対策における連携や今後の展望について
(※iCDC東アジア太平洋地域事務所、国立国際医療研究センター(令和7年4月、JH-5へ組織改組)、東京iCDC)

プログラムの詳細と参加申込はこちら
申込締切：令和7年1月31日(金)17:00

東京iCDCフォーラム 検索

東京都

参加費無料! 事前申込制

オンライン参加もOK!

都民を感染症から守る

東京iCDCフォーラム

会場 東京都庁第一本庁舎5階大会議場

定員 各日会場300名(応募者多数の場合は抽選)

1日目 都民向けシンポジウム

テーマ: 感染症×子供

令和8年(2026年) 1月24日(土) 13:30～16:20(開場13:00)

対象者 都内在住、在勤、在学の方など

プログラム

1. 専門家による講演
- 注意したい子供の感染症
- 子供の免疫力を高める社会管理
- 子どもが安心して生活できる感染症対策

2. 庄司 智恵さんと専門家によるトークショー

3. ポスター表彰
感染症予防普及啓発ポスターコンクールの表彰式
※ロビーにてポスター展示も実施

講師 ① 夏島 満夫氏 東京iCDC所長
② 庄司 智恵さん 東京iCDC副所長

2日目 感染症対策関係者向けシンポジウム ※日英同時通訳あり

令和8年(2026年) 1月25日(日) 13:00～17:30(開場12:30)

対象者 保健医療関係者、高齢者施設等関係者、研究者、公衆衛生関係者、感染症対策に関心のある方

プログラム

1. 座談会
テーマ: ①薬剤耐性(AMR) ②リスクコミュニケーション

2. 討論会
感染症対策においてそれぞれが果たす役割や連携のあり方、今後の方向性について
米国衛生安全保障庁(UKHS)、内閣府感染症危機管理統括庁、国立感染症管理研究所(HHS)、東京都、東京iCDCによる討論

プログラムの詳細と参加申込はこちら
申込締切：令和7年1月31日(金)17:00

東京都

東京iCDCフォーラムチラシ
(左: 令和6年度開催、右: 令和7年度開催)

都民アンケート調査の実施 ーリスクコミュニケーションー

感染症に対する都民の意識を理解するため、アンケート調査を実施し、都の感染症施策や情報発信に活用

感染症に対する都民の皆様の意識を理解し、効果的な情報発信や感染症対策に繋げていくため、「都民1万人アンケート調査」を実施しています。

コロナ禍においては、新型コロナウイルスに対する意識や感染対策の取組状況等について調査を行いました。

平時の現在においても、新たなパンデミックへの意識や備え、発生時の対応等の設問を追加するなど、毎年度調査項目を見直し、充実を図っています。

調査時期	有効回答数	トピック
令和2年（2020年） 10月15日～17日	935	・新型コロナ対策の取組状況 ・モニタリング分析の知名度 ・新型コロナに関して抱えている問題や不安 等
令和3年（2021年） 2月10日～13日	5,410	・宣言期間中の対策の取組状況 ・都の対策に対する意識 ・宣言解除前と解除後の行動について 等
令和3年（2021年） 2月26日～3月3日	10,000	・マスクやテレワークできないのはなぜ ・受診しないのはなぜ ・新型コロナのワクチン。接種する？知ってる？ 等
令和3年（2021年） 7月16日～17日	1,000	・ワクチン接種意向 ・ワクチン接種に関する考え方 ・感染対策の取組状況 等
令和3年（2021年） 10月21日～22日	1,000	・感染防止対策を続けていますか ・この先のこと、どう思う？ ・進んだワクチン接種。やっぱりためらうのはなぜ？ 等
令和4年（2022年） 3月15日～25日	10,000	・流行から2年。現在の感染対策は ・コロナに対する意識は ・通常医療への影響やワクチン4回目について 等
令和4年（2022年） 10月1日～3日	1,000	・流行から3年近く。都民の感染防止対策の現在とこれから ・季節性インフルとの同時流行が懸念される冬に備えて 等
令和5年（2023年） 2月15日～21日	10,429	・マスク着用のマイルール ・医療従事者のためにできること ・コロナへの気持ちの変化 ・新型コロナと後遺症 等
令和5年（2023年） 3月8日～11日	35名 ※6グループ	・コロナの影響(ポジティブ、ネガティブ) ・コロナの収束、共生 ・今後行政に発信して欲しい情報、取り組んで欲しいこと 等
令和5年（2023年） 6月1日～21日	2,000	・感染症に関する情報源、情報収集に用いる言語、困りごと ・東京都の施策についての評価 等
令和5年（2023年） 12月14日～16日	36名 ※6グループ	・感染対策の現状 ・コロナ禍を振り返って ・コロナの収束 ・今後のワクチン接種意向 等
令和6年（2024年） 2月9日～19日	10,531	・新型コロナの経験・後遺症 ・新型コロナ流行下で困ったこと・つらかったこと ・新型コロナに関する気持ち・定着してほしいもの 等
令和7年（2025年） 2月7日～17日	12,164	・現在の感染症対策 ・薬剤耐性・抗菌薬・抗生物質 ・災害発生時の感染症対策 ・新たなパンデミックへの考え・備え 等

※アンケート結果は、東京iCDCの「note」でより詳しい分析を行っています→

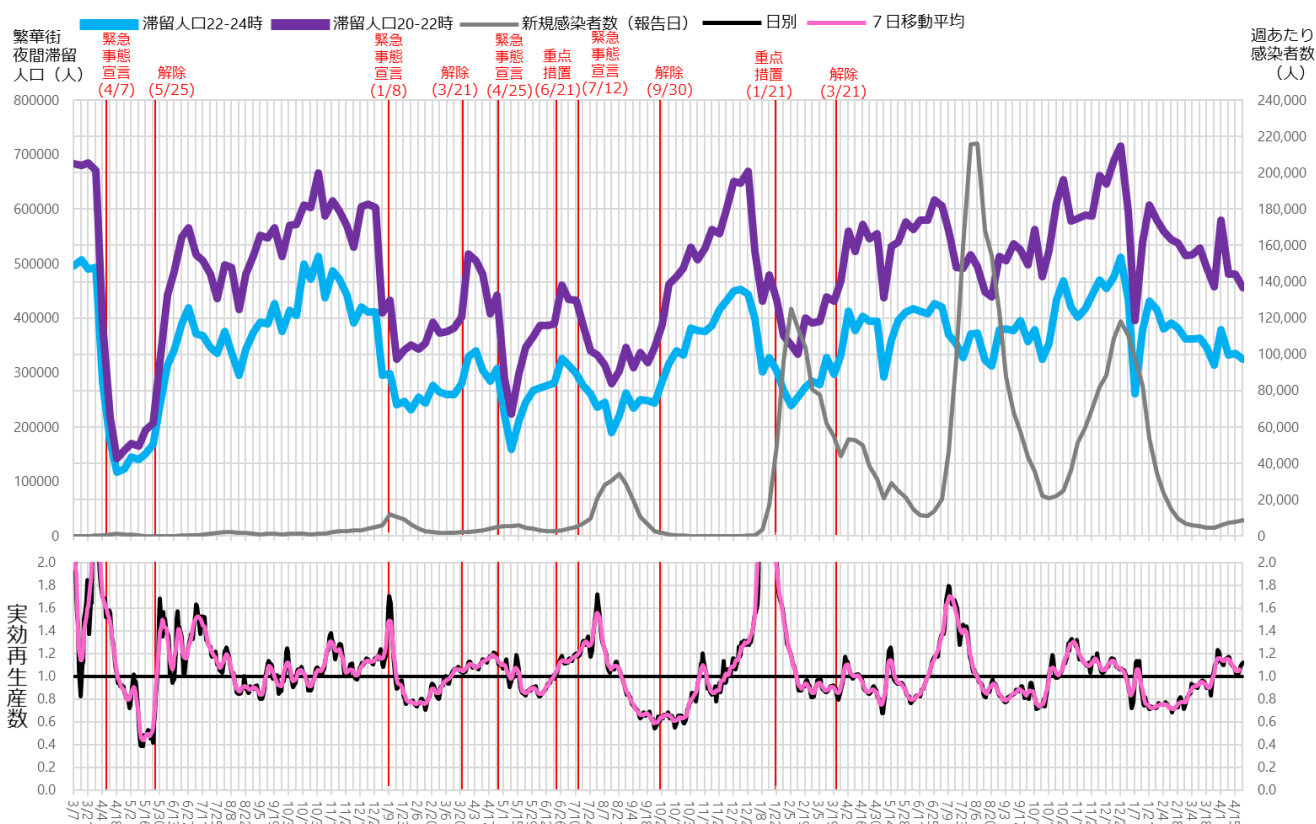


主要繁華街滞留人口モニタリング

感染状況の予測指標として、東京都や国のコロナ施策に活用

GPSで捕捉した移動パターンから、主要繁華街にレジャー目的で滞留したデータを抽出・モニタリングし、深夜帯の繁華街夜間滞留人口と感染状況の間に相関関係があることを見いだしました。

さらに、改良を重ねた予測式に基づき、3年間取り続けたデータで長期的関連を検証した結果、改めて、夜間滞留人口と感染状況との間の相関関係を確認するとともに、より精度の高い予測が行えるようになりました。



*対象繁華街は歌舞伎町・銀座コリドー街・渋谷センター街・上野仲町通り・新宿二丁目・池袋・六本木

LocationMind xPop © LocationMind Inc.

主要繁華街夜間滞留人口の推移と実効再生産数(東京都)

新型コロナウイルス感染症モニタリング会議

東京都の新型コロナ対策を検討する会議で、東京iCDCの取組を報告

東京都の新型コロナウイルス感染症モニタリング会議（令和2年（2020年）7月～令和5年（2023年）4月まで全117回開催）において、毎週、賀来所長をはじめとする東京iCDCの専門家や東京都感染症医療体制戦略ボード（※）の専門家が、主要繁華街滞留人口モニタリングや変異株の発生動向、その他調査・研究等や、都内の医療提供体制の状況などについて報告し、エビデンスに基づいた東京都の新型コロナ対策等の施策展開をサポートしてきました。

※救急医療又は感染症医療に精通した医師等から構成され、未知の感染症を含むあらゆる感染症に係る全般的な医療提供体制について、都の要請に基づき助言を実施



新型コロナウイルス感染症モニタリング会議

東京iCDCの取組は、下記HPより御覧いただけます。



コロナ禍における東京都/東京iCDCの詳細な取組は、下記HPより御覧いただけます。



<東京都>



<東京iCDC>

作成：東京都保健医療局感染症対策部調査・分析課
(東京iCDC事務局)

令和8年(2026年)5月 第3版(全面改訂)